

### ヤイトハタ0才魚の給餌方法

〔要約〕ヤイトハタの0才魚の給餌方法を検討するために平均体重73.3~80.9gのヤイトハタ人工種苗を用い、週3回給餌と毎日給餌の比較試験を実施した。その結果、生残率、成長ともに大きな違いはみられなかった。

沖縄県水産試験場 八重山支場			連絡先	09808-8-2255			
部会名	水産	専門	養殖	対象	ヤイトハタ	分類	指導

#### 【背景・ねらい】

ヤイトハタの養殖初期の給餌方法については1日1回の給餌でも1日2回以上の給餌と生残、成長に大きな差がないことがわかった。ヤイトハタの生物特性及び養殖の省力化の面からその後の給餌方法についても検討する必要がある。

#### 【成果の内容・特徴】

- ①屋外250kl水槽に生簀網を設置し、平均体重73.3~80.9g(平均全長157.2~163.2mm)のヤイトハタ人工種苗を100尾/m<sup>2</sup>の密度で収容し、週3回給餌区、毎日給餌区を設定し、成長生残を調べた。試験期間中の水温は図1に示した。
- ②飼料はマダイEP飼料を用い、給餌量は週3回給餌区は飽食量とし、毎日給餌区は週3回給餌区の飽食量をもとに毎日の給餌量を決定し、両区ともほぼ同量に保った。
- ③週3回給餌区の供試魚は養殖初期の給餌法試験で1日1回給餌の飼育履歴、毎日給餌区は1日2回給餌の飼育履歴を持つものである。
- ④日間給餌率は試験開始頃は1.13~1.19%であったが、水温の低下、魚体の成長に半減し、終了時は0.59~0.68%となった(表1)。
- ⑤生残率は93.9%(週3回給餌区)、99.7%(毎日給餌区)と共に高い値を示した、減耗の原因は斃死魚がほとんどみられなかったことから共食いと考えられた(図2)。
- ⑥両区の成長差はほとんどなく(図3)、日間増重量率(0.59~0.60)、増肉計数(両区とも1.4)も両区ほぼ同様であった(表2)。

#### 【成果の活用面・留意点】

- ①週3回給餌の場合は給餌に時間を十分かけて行うこと。
- ②日常観察による飼育魚の健康状態の観察は怠らないこと。

[具体的データ]

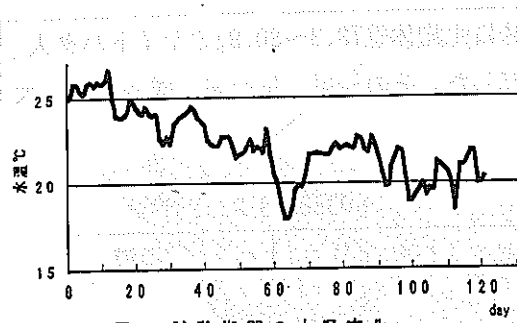


図1 試験期間の水温度変化

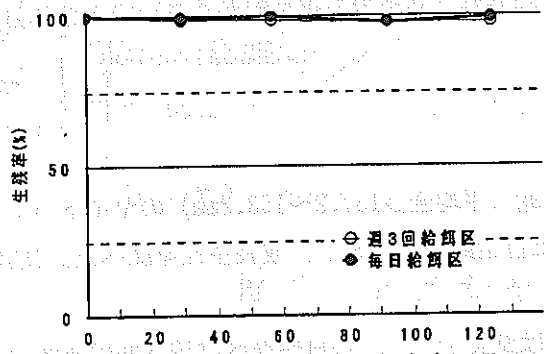
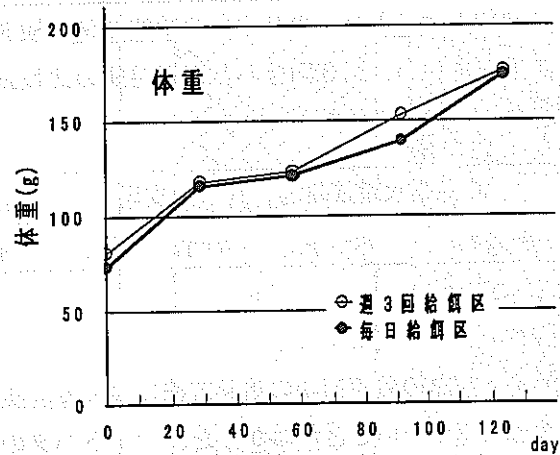


図2 給餌回数別生残率

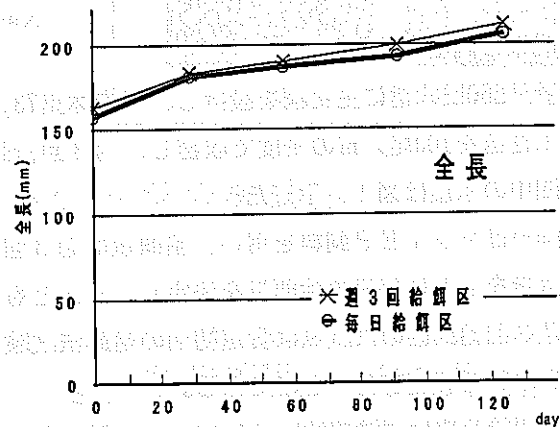


図3 給餌回数別平均体重、平均全長の変化

表1 各試験区の日間給餌率

	週3回給餌区	毎日給餌区
99/10/20~99/11/18	1.13	1.19
99/11/18~99/12/16	1.04	1.00
99/12/16~00/01/20	0.67	0.69
00/01/20~00/02/21	0.59	0.68

表2 試験結果一覧

試験区	試験開始時(99/10/20)		試験終了時(2000/2/21)		総給餌量(kg)	日間増重量率(%)	増肉計数
	平均全長(mm)	平均体重(g)	平均全長(mm)	平均体重(g)			
週3回給餌区	163.2	80.9	211.0	176.6	111.45	0.60	1.4
毎日給餌区	157.2	73.3	205.5	174.6	114.80	0.59	1.4

[その他]

研究課題名：ハタ類種苗量産養殖技術開発試験

予算区分：県単独事業

研究期間：平成11年度(平成11年度)

研究担当者：大嶋洋行・仲盛淳・岩井憲司・仲本光男

発表論文等：平成11年度沖縄県水産試験場事業報告書(掲載予定)